

第3回福島市中心市街地将来ビジョン検討委員会 議事録

- 1 日 時 平成30年10月9日（火） 15:00～17:00
- 2 場 所 コラッセふくしま 3階 企画展示室
- 3 出席者 佐藤 滋 委員長、小林 敬一 副委員長、西田 奈保子 委員、
西内 みなみ 委員、石井 浩 委員、小林 勇一 委員、
引地 洲夫 委員、小河 日出男 委員、高橋 美奈子 委員、
佐藤 玲子 委員、平子 健 委員、山本 克也 委員

オブザーバー

堀田 洋一、菊地 啓広

4 内 容

(1) 開会

(2) 議事

①これまでの検討委員会の振り返り

②第3回福島市公共施設の戦略的再編整備検討委員会資料（抜粋）

③中心市街地将来ビジョンについて

(3) その他

(4) 閉会

5 概 要 議事内容について事務局説明後、質疑応答、意見交換

6 委員の主な発言

①これまでの検討委員会の振り返り

②第3回福島市公共施設の戦略的再編整備検討委員会資料（抜粋）

委 員

公共施設の再編整備検討委員会の市民の意見では、議会棟の建設は、優先順位が低い意見が多かったように思う。それについての議論を確認したい。

事務局

本庁舎西棟について議論を行ったが、具体的な議論にはなっておらず、市民交流機能を検討している。

委 員

市民のアンケートを見ると、議会は本庁舎東棟で機能しているため、本庁舎西棟にはいらないと

の意見であった。そのことは議論にはならなかったという理解でいいのか。

事務局

公共施設の再編整備検討委員会の中では議論にはならなかった。

委員

図書館本館は、読書教育など本来の役割も含め、踏みこんだ検討がなされたのか。

事務局

現在の場所に図書館本館を建て替えるべきかという議論から始めた。新たに複合・統合するという議論に対し、どのような図書館が今後求められるのか、というコンセプトなどを別途議論したうえで、在り方を検討すべきとの結論となった。

委員

福島市の場合は、県立図書館との関連性や市全体を考えると、単に図書館が老朽化したから建て替えるというのは、少し物足りないと思う。

委員長

公共施設の再編整備検討委員会において、図書館本館は入念に議論すべきということで進めている。

委員

本検討委員会では、公共施設の再編整備検討委員会の意見が今まで展開されてきた。本来は福島市の中心市街地がどうあるべきか、何が必要なのか、議論することが一番の目的である。

私は中心市街地に人が集まる、楽しめる、人が来るまちであってほしいと思う。そのためには、どうしたらいいか考えるべきだと思う。人が集まる商業施設は絶対に駅前に必要である。

例えば、三越とか郡山のうすいなんかがあればいいと思う。そういったものを本当に展開できるのか。また、シャッター通りではいけない。常に路面店がオープンしているお店が必要である。

福島市は県内の他の市に比べ駅の乗降客数が多いという話を聞いたが、この流れをどうしたら取り込むことができるのか。駅前に駐車場やコンベンションホールも整備するということで、駅前を中心とした中心市街地が、市民、また来街者が利活用しやすい、楽しめる、来てよかったと思え、住むにはどうしたらいいか考えるべきではないかと思う。

駅前に商業施設の誘致は必要だと思っている。コンベンションホールについてはいろいろな話を聞いているが、駅前でなくてもよいのではないか。

商店街や専門店がシャッター通りではなく、日曜日も開いており、人が集まるまちをつくるためにどうしたらいいかを考えるべきだと思う。

委員

駅前の再開発、商業施設、コンベンションホールが緊急の課題である。また、市役所周辺も含めた全体を考えていく会議であると思う。

委員長

それらの件については、次第の3番のところで議論したいと思う。

③中心市街地将来ビジョンについて

委員長

都市機能の配置方針では東西軸動線を強くしようとしている。回遊性は広く考えている。駅の西側も含めて集積させる方向性である。

委員

福島の特性は、温泉、果物、花くらいしか思いつかないため、中心市街地の具体的なイメージがわからないのだと思う。

財政的には、10,000㎡程度のコンベンションは、かなりの投資が必要だと思う。ある程度、的を絞った投資が必要である。

私は、商業施設を第一に、誘致することが必要だと思う。その次に、花や観光がある。駅前には温泉のポスターや掲示板が見当たらない。花もないし、よい果物も駅前には売っていない。福島の強みを見つけ、そこに一点集中することが大切である。

これからますます人口が減る時代で、30年先を見据え考える必要がある。

委員

県庁所在地であるが、賑わいが無い。メインは商業施設である。繁華街を形成しない限り駅前には活性化しない。昔、スズラン通りなど賑わいがあった。通りについては、どこが中心なのか、どのように繁華街をつくりあげるのかが重要である。

温泉や花があれば素晴らしいが、果たして具体的にどのように売り込み、賑わいをつくり上げていくのかを考える必要がある。商業機能はどのようにするのか絞る必要がある。

委員

駅前の商業機能を充実させて貰いたい。消費購買動向調査などを参考にして、商業規模を把握しないと厳しいと思う。

また、「福島らしさ」とは何か固まっていないので、駅前に花桃のプランターを置いても気づいてもらえない。

現在、駅前には、花桃があり、花時計もある。4月には花で花見山もつくっている所以花が咲いている時期に「花」を前面に出してお迎えするようにしている。

委員

「信夫山、花見山などの優れた眺望と調和した歩行者優先の魅力的でシンボリックな道路空間」と書かれてあるが、渡利には毎日バスで観光客がたくさん来るにも関わらず、まちなかには観光客が来ない。理由は駐車場が整備されていないためである。観光バスは駐車できず、多くの観光客を

乗せたバスがまちなかに来て客を降ろすことはない。しかし、駐車場が離れたところにあったとしても、まちなかに降りてもらおうようなことをしていかなければ、まちなかの賑わい創出のためにならない。自家用車で観光に来た方もあまりまちなかには来ない。

市内には、「民家園」や「宮畑遺跡」などの魅力もある。まちなかが様々な情報の発信拠点となっている。一生懸命発信しても実際にはあまり客が訪れていない現状である。それならば、SNSなどの情報発信ツールなどを上手に利用して、客が訪れてくれる状況をつくり上げていくのが重要ではないのかと思う。

次に東西自由通路について、他市の通路は幅が広く圧迫感がない。また、福島市は、東西に分断されてしまっている。商業機能は「東」と「西」だけではなく「駅」の中にもある。それを一体的に考える必要がある。

また、サッカー場について、ヨーロッパなどでは、駅前にサッカー場があり、サッカーの試合だけでなく会議やセミナーができるようになっている。駅から歩かなくても改札口を出たら、サッカーの試合やコンサートができるようなサッカー場を整備すれば、試合がないから生産性が上がらないということはなくなると思う。

委員

辰巳屋が来年の8月で撤退するが、建物は古いままである。中合はどうするのか。これは本当に緊急の問題である。中合がどういった形で残るのか、あるいは辞めるのか。又は、デパートと事業所が一緒になっているような複合施設になるのか。イオンやイトーヨーカ堂などが、そのような複合施設に入るようなビジョンはあるのか。そのようなことを考えているのか心配に思う。

そして、福島では大きなコンサートができない。

再開発の方々や行政が歩み寄り知恵を出し合っていく必要がある。駅前の商業施設や福島の魅力などを回復していかないと福島の復活はないと思う。市役所も市長を始めとして一生懸命頑張ってほしい。

昔、福島市に初めて訪れた福大の教授が「福島は山や川などの自然が素晴らしく、人情もあり、果物も美味しいこんな街は他にはない」と言っていた。それは魅力ではあるが、東北の福島市にはあってしかるべきことで、売り物にはならない。そこに付加価値を加えなければならないと思っている。

委員

先日海外から福島市の視察に来た方々が、「福島市はちゃんと整った都市だ」、「思ったより福島のイメージが悪く伝わっているが普通だ」と言っていた。「駅に降り立って温泉街に行くだけではなく福島の街の中を回遊してもらうにはどうすればよいか」と伺ったところ、「今あるものを大切にしながら10年後、20年後を考えたらどうか」との答えが返ってきた。

バンコクの都市計画は、そのように進められており、タイはインバウンドの交流人口は日本の倍である。世界中から訪れてもらえるようになった。それも一つの手本として進めていくのも素敵なことだと思う。

「悪い意味であれ、“福島”の知名度は世界でも高い。数年後、数十年後には、今の行動がプラスの方向に働く」という助言をいただいた。

まちづくりの方針において、「交流人口の拡大」なのか、「市民生活の充実」なのか、それとも「定

住人口の増加」を目指すのか、あるいは「コンパクトシティ」を実現したいのか、「どれ」なのか分からないのが正直な感想である。

福島らしさをなんらかの形で基本方針の中に、盛り込まれると委員も意見が言いやすい。

副委員長

中心市街地に関しては、商業をいかに活性化させるか、どのまちも大変苦勞している。一つ一つのプロジェクトに、その都度適切な判断が求められる。

駅前再開発については、プロジェクト例は多いが、この機会に駅前が栄えるための土地条件や周辺条件を広く考えて最適解を考えることが大事だと思う。当該プロジェクトだけで簡単に駅前が賑わい、商業機能が活性化するわけではないが、それ以外に方法はないと思う。

商業を考えるにあたって、まず、中心市街地外からなかなか中心部に行く機会や用事がない。中心市街地にどのような人が来ているのか、目的や交通手段などを確認すべきだと思う。

大学ができ、病院も改築されて新しい機能が生まれてきつつあるのではないかという希望がある。また、高齢となり、マンションのあるまちなかに住みたいと言っている年齢層がある。民間の方はその点のしっかりとしたデータを持っていると思うので、どの程度のマンション需要や居住の需要があるのか分析した方がよい。また、中心市街地外の住民や学生、企業などの中心市街地との関わりを把握すると思う。

もう一つの問題は、商業機能がネット販売に奪われていること。本を買うにも中心市街地でなくネットで買ってしまふ。おそらく情報化が進み、売り方自体が変わってきているためである。

中心市街地に核となる店舗があり、そこに集まる客の回遊が生まれ、そこを中心とする商店街ができ上がる。昔はその形で成り立っていたが、今は成り立たない。それぞれの個店が情報発信力を持ち、吸引力を持つ必要がある。そのような店は郊外でもどこにでも店を構えることができる。むしろ、そうした「情報発信力」や「吸引力」がある店が中心市街地に店を構えるくらいの気持ちでなくては将来性が見出せない。個々の店舗がそのように変わっていくきっかけや手立てが必要なのではないか。

そのために、イベントやコンベンションなどの機会をとらえて、個々にしっかりとしたネットワークをつくっていくことが大事である。

その意味では、「コンベンション」自体というよりも「コンベンションが中心市街地の商業の進化のために何か役立つもの」になるのではないかと期待している。また、そこにはインバウンドなどとも結び付けられるのではないかと思う。

本日の資料のコンベンションについて中身は明らかではない。コンベンションとしては、多様なものが考えられる。展示会場・メッセのようなもの、レセプション、あるいは学会大会のようなものなど、いろいろなものがある。ここでは、どのような活動が求められるのか。大学などの教育機関があるため、大学と企業を繋ぐもの、あるいは企業と学生を繋ぐものが求められるかもしれない。一方で、商業者が何かを企画しながらネットワークを広げるような場が求められるかもしれない。芸術や演劇、映像を中心としたものもコンベンションである。情報ネットワークを広げるという点では、放送局やマスコミなどとも結びつくような機会や仕組みも必要になるかもしれない。コンベンションという中身をもう一度どういう形なのかを明確にする必要がある。

本日の資料に書かれているコンセプトだが、確かに「回遊性を高めて情報発信を強化する」ということはよいが、焦点を絞る必要がある。例えば山形市においては、駅前では「音楽機能」を高

めており、これまでにあった中規模なホールの評価が高かったため、今は大きなホールを手掛けています。福島市がそのような方向に進むには、土地のスペースがないのでは。むしろ、大きなプロジェクトより小さなプロジェクトをつないで、それぞれの通りの魅力を高めるなど、様々なものが混在することが中心市街地の魅力になるのではないかと思います。

本日の資料では、それぞれの通りの魅力が見えない。背景にある歴史性を考える必要もあろう。実際歩いてみると、意外なところに立派な神社があったりする。歴史性をベースに置き、現状を評価しながら、全体的に魅力を高めるにはここにどのような機能を持ってくればよいのか考える必要がある。

コンベンションは一か所で全部収まるわけではなく、また、非日常性を持ったものでもあるので、まちを広く使い、まち全体に展開しながら、それぞれの場所ごとを魅力的なものにしていく必要がある。

委員

市民が、ただの消費者として集まってくるだけでなく、自分の個性や強みを持ち寄って、行きたいような場所をつくっていく必要があると思う。

これまでの公共施設の利用者層なども含め、エリアマネジメントのような考え方をハードができあがってから始めるのではなく、プロセスとして組み込んでいく必要がある。最初からこういうビジョンをつくるという流れの中から、市民に関心を持ってもらって、市民も行動に移っていくようなことを考えていくのがよいと思う。大きな商業施設ができたから市民が自然に集まってくるようなことは、郊外化やネット通販などの状況から考えると、市民の力を中に詰めるということをセットにしないと難しいのではないかと。

2年前に私が所属する学院の学生にアンケートをした。学生の意識としては、駅周辺は賑わってほしいと考えている人は7割いた。また、駅周辺でのアルバイト経験がある人は半分くらいいたことを考えると街に出てきてはいる。それに伴って駅周辺で外食している人もそれなりにいる。しかし、ファッションなどの買い物はあまりしないという傾向がはっきり出ていた。休みの日に大都市に行っている、ネット通販している、南福島や郊外に出ている、といった形なのかと思う。一方では、自分のお気に入りの古着屋の店員と話すのが楽しくて、そのために二本松市から出てきているという例がある。その人たちと話をしている中でプランターに花を植える活動に誘われて出てきたという話も聞いている。

福大のほとんどの学生は郊外に住んでいるが、駅前に出てきているので、行動を上手くキャッチできるような仕組みや仕掛けづくりが必要だと思う。そういったエリアマネジメント的な、市民がただの消費者ではなく、一緒につくっていくものが重要である。

委員

現在6,300人の学生が市内にいる。県立医科大学の新校舎を建てると4年間で約600名の学生が在籍し、市内にいる7000人ぐらい学生が駅前周辺を回遊するのではないかと期待している。

資料の都市機能配置（案）は、機能が全部分断されているような感じがする。

本学は既に生涯学習センターが30年近く開かれていて、1,700名の方が昼夜問わず利用している。ほとんどが市民の方である。遠くから来ている方もいるが、一番多いのは、60、70代の高齢者である。誰をターゲットにして賑わいをつくるかと考えた時に、これから増加する高齢者の

方々や増える学生などをターゲットにし、ハイブリッドな機能を駅前につくる必要がある。つまり商業目的だけでは難しいと考えている。

1,700名の受講生に一番嘆かれているのは、買い物する場所がない、お茶する場所がない、ランチが食べられない、夕食外食ができないということである。駅前だったらそれができる。車で来る方はほとんどいなく、100円で行けるももりんバスや、自転車で来る方が多い。このターゲットを駅前に動かすことができたなら駅前は、賑わうのではないか。

多賀城市の図書館は、多くの人が読書のついでにお茶を飲んでいく、お気に入りの店で買い物をするなど、主の目的で来た人の足止めをしている。様々なターゲットを想定しての集客が必要になると思う。

福島市は品格のある県都なので医療と教育と生涯学習が充実していると市民が高らかに宣言できるようなまちにできたらよいと学生と話している。

南相馬に震災直後、学生を連れて行った時に、市民に「大学生が来てくれるだけでまちが活気づく」と言われた。道の駅でお土産を買っている中、若者が楽しそうに地元の方から食べ物をいただいている。そこにまちの原点があると思う。

委員

福島らしさというのは、いで湯、果物、花があるが、「生涯学習」が充実したまちも1つのキーワードになると思う。

私は福島で買い物をするが、仙台や東京でも買い物をする。市内にも魅力的な店がある。福島の店主の方の目を通して選ばれたものを信じたい。昔から慣れ親しんだものが続いてほしいと思う。

福島の昔からやっている喫茶店などが残っていると安心感があり、あそこに行けば美味しいコーヒーが飲めるというような個店を大事にしたまちづくりが重要で、最初に大きな店舗を持ってくるという発想はなくてよいと思う。お店の方にも頑張ってもらいたいと思う。

委員

アオウゼ・MAXのところは商業機能だけではなく教育文化機能も追記してほしい。福島駅の隣に看護専門学校があるので、教育機能を追記してほしい。

福島市の強みのひとつとしては、昔から師範学校があったことである。

本庁舎西棟について3つの機能しか入っていないが、将来ビジョンの結論と考えていいのか。

事務局

もともと本庁舎東棟と西棟はセットで東日本大震災の時にできる予定であったが、西棟は延期している。今回の将来ビジョン検討委員会では、今までの機能に追加するようなイメージで図面に入れている。

委員

短期的、中期的、長期的と考えた場合、人材の育成にはかなり時間がかかる。誰がそれをやるのか考える必要がある。

今、プロジェクトが進むときに、従来の駅前の考え方でよいのか疑問である。商業施設は駅前から撤退している。企業としては商業施設を永続的にやるための検討やノウハウを詰め込んでいると

思う。従来のような百貨店方式ではないことも十分考えられる。

委員

まず、都市機能の配置方針の図があるが、これは中心市街地にどういう機能を備えるべきか、あるいはどういう機能を強化する必要があるのかを整理する必要がある。委員会のビジョンとして、具体的にどういう施設にどういう機能を持たせるか決められる部分と決められない部分があると思う。

その辺りを事務局で、次回どのように整理していくのか各委員に説明できるように準備してもらう必要がある。

駅前の商業機能は、商業の形態が変わっていくにせよ、専門品や買い回り品など、こだわりの品の買い物を楽しむ機能は駅周辺には必要である。また、市民だけではなく広域の人達にも来てもらえる商業機能が必要である。その中で再開発の機運が高まっているため、そこは大いに期待したいと思う。さらに、いろんな機能が集まるとすれば、大きなボリュームとなる交通処理をどうするか、駐車場だけではなく、課題としてあげておく必要がある。

副委員長

1点目は、マーケットサウンディングが重要だと思う。中合やそこに入っているテナントがどうしたら成り立つのか、どのように考えているのか知る必要がある。望むものが立地できるかはわからないが、通りのテーマにふさわしい空間づくりをすることによって後押しできるかもしれない。まずは事業者の意見を聞きながら考えていく必要がある。

2点目は、イメージから考えるだけでは限界があるということ。土地の面積や形によって条件が規定されるので、そちら側からも考えておく必要がある。

3点目は、昔、ナレッジコアというものを提案したことがある。プロジェクトの姿を、商業、業務、バンケットなどの言葉だけで描くのではなく、どういう変革を地域に起こしたいか考え、そのシナリオの中で場所の在り方を考えていくのもひとつである。学生たちが何か用があって中心市街地に来ていることが重要であり、これからも人々がどういった形で中心市街地に関わっていくのか、そうした所から考えて、全体の魅力を高めていくシナリオにすることも考えられる。

4点目は注文ですが、ポンチエの絵柄がよくない。従来の通りや路地や緑ある公園、広い広場などを表現しただけで、もっと内部空間と外部空間がうまく混じり合いながら、通りすがりの人がちょっと寄ってみたり、徐々に場に参加していけるような仕掛けを持った空間がよい。具体的には改めて議論したいと思う。

委員長

委員から様々な意見が出たと思うので、貴重なアイデアを事務局でまとめてほしい。ただ、1つのことを最後まで決めきることはできない。まとめ方として、方針は示されているとは思いますが、それ以外に、シナリオのようなものをつくとよい。いろいろな選択肢があるため、1つに決めるのではなく、いくつかのシナリオを書く。

可能性や考えを資料に表してほしい。それで決定ではなく、次のステップに行くときの参考として使う。

再開発に関しても、コンベンションと商業機能は密接に組み合わせて商業活性化に結び付けると

いったシナリオや、核となるコンベンションを持ってきて、よりコンベンションを充実させるといったシナリオがある。これは全然違うストーリーであるため、事業者との関係があり、ここでは決められない。そのため、明示したことはまとめてもらいたい。

アオウゼに関しても、いろいろとシナリオが考えられる。事務局の中で議論しているものを1つのストックとして出して、共有のものとして使って次の段階で生かせるようにまとめてもらいたい。

それから東西軸は、空間的に見て駅前通りの整備が済んでいるが、ここはもっと面白いことができる。駅前から真っ直ぐ延びており、様々な軸が結節している。トランジットモールのような、公共交通だけが入って、モールで内外が一体に使える空間は面白いと思う。東西動線もいろいろと考えられていると思うが、極めて消極的になっている。この軸をどう活用するか、それに併せて他のものを考えていくと思うが、これで決めきるわけではない。大体でよいので可能性を描いてもらいたい。

もう1つは短期的、中期的、長期的とあったが、駅ビルの計画もあると伺っている。そういった長期的に考える場合、今の線路の在り方と東口と西口が離れている課題を考える必要が出てくる。

現在、駐車場として利用しているが、この辺をいじるのは難しいようで難しくない。今回描ききることはできないが、長期的に見れば様々な可能性がある。こういう機会にはアイデアに問題があるから描かないのではなく、描いておかないと実現しない。決めるわけではないが、こういったものが考えられるというものを置いておかなければ次に進められない。是非福島にはまだ余力があると思うので、これをもっと生かすようなことを事務局には考えてもらいたい。考えられることは出して、アイデアのストックをつくり、次に生かしてもらいたいと思う。本日委員から出た意見は、すぐに全部案の中に入れるのではなく、可能性を検討課題として次に移るときに採用できるように報告にしてもらいたいと思う。